

この時代、実はぼくはゲームを持っていない。ぼくの好きなゲームは、ザリガニ釣り、磯遊び、昆虫採集、魚釣り。そんなぼくは、ヒロキとユウヤと一緒に遊んでいるような気分になってこの本を夢中で読んだ。特に大ウナギとの勝負の場面では、力が入り、あくわくした。えさをし、かりはさんでたべているザリガニを引き上げる瞬間を思い出した。また二人が滝つぼにいる数匹の魚をとろうと飛びこんだ場面では、海でキャップをした

時、友達と追いかみ魚をしてイワシをとったことを思い出しながらあくわくした。ぼくは、山や川、海など自然の中で遊ぶことが大好きだ。理由は三つある。一つ目は、気持ちがいいこと。トシキングで吸う空気は、とう明で清々しい。滝の音や波の音も大好きだ。二つ目は、達成感。明け方に公園で念願のワウガタを見つけた時のうれしさ。遠くに見えていた山の頂が近付いてきて、登りきった時の充実感。体全体に感じる達成感

がたまらない。三つ目はどきどき感。母とシ
 ノーケルで海にもぐって魚の大群に囲まれ
 た時。沖縄で出会った大きなヤシガニ。北ア
 ルプスで出会ったかわいいオコジョ。生き物
 との出会いは運命的だ。自然界は楽しいし、
 おもしろいし、美しい。自然の美しさは、ほ
 くたちに美しいと思える感情を育ててくれる。
 この本を讀むまでは、自然の中で遊んでい
 ても、森里川海についてあまり深く考えるこ
 とがなかった。たし、それらのつながりへの理解
 はあまりなかった。そんな時、「私たちは森林
里川海でできている」という言葉はしやうげ
きのだった。ぼくの体の中の水は、もととはと
いえば川の水であること。森と里と川と海が
つながりをもっているということ。すべてが
つながっていることを考えると、ぼくたち人
間は自然と一緒に生きているのたなと考えら
れる。

この夏、北海道のけい流でヤマメを釣った。
 ヤマメはその後海に行き、てサワラマスになり、

再び元の川にもど。てくるらしい。そのサワ
ラマスもクマが食べれば、サワラマスが森に
運ばれたとも考えられる。目には見えにくい
けれど、いろいろなものがある。ヤマメのよう
にじゅんかんし、関わり合っているのたろう。そ
う考えると、登山でゴミを捨てないでくたさ
いと伝えていっているかん板は、単に山をよごさな
いでほしいということだと思。ていたけれど、
それは山だけでなく里川海も大切に、人間
が安全に気持ちよく過すためのメツセージ
のようにも感じる。

自然にはまたまたぼくの知らない世界があ
りそうた。もつとも、知らない自然を知り
たい、感じたいと強く思う。自然が自分の一
部であることや、森里川海が心のようにつな
がっているかということに気付くことで、さ
らに新しい自然の世界が見えてくるかもしれ
ないからだ。